

防衛省の説明会に対する住民の会の声明

イージス・アショア配備計画の撤回を求めます

そもそもイージス・アショアの配備をめぐる昨年12月の閣議決定は、「北朝鮮の脅威」が根本理由でした。

しかし、この半年間の「北朝鮮をとりまく」動きには、4月27日の南北首脳会談以後、対話ムードが広がりました。

そして、世界中が固唾をのんで注目した6月12日の米朝首脳会談では、先ずは話し合い（＝対話）からという、外交の基本中の基本が実現しました。

そんな最中に、防衛省のイージス・アショア配備を急ぐ動きは、北朝鮮へさらに圧力をかけるものであり、朝鮮半島の平和にむけた動きに逆行するものです。

イージス・アショアは「防衛」「迎撃」と言われていますが、敵基地攻撃能力を持つ巨大なミサイル基地です。

いったんつくられた基地は、二度と撤去はできません。

巨額の購入費は認められません

イージス・アショアの購入費は、2000億～5000億円といわれていますが、アメリカのFMS（対外有償軍事援助）による購入です。会計検査院は防衛装備庁に減額交渉を指摘しています。自衛隊幹部は「部隊のやりくりはただでさえ苦しい。高額装備品の購入が続けば、人件費や維持費に影響がでかねない」と危惧しています（毎日新聞他 2017・12・17）。

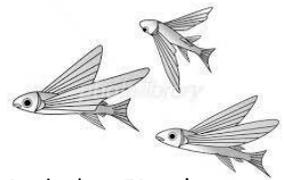
海上自衛隊のイージス艦は、現有の6隻に加え、2隻の最新型新造艦によって、8隻態勢となるそうです。その上にイージス・アショアを地上配備することは、過剰な防衛装備です。

「適地調査」は水源に大きな影響を与えます

防衛省は、基地建設のための「適地調査」で、地質を調べると発表していますが、ボーリング調査などは水源に大きな影響を与え、生活・第一次産業・環境への影響は不可避です。

萩・阿武地域は、活火山・阿武火山群の中にあり、私たちは火山からの様々なめぐみを糧に、暮らしています。

平らな溶岩台地は、ミネラル豊富な湧水をもたらし、おいしい米や野菜や果物がつくられています。海底の火山は、潮の流れが海水をかき回し、豊かな漁場となっており、おいしい魚の宝庫です。



歴史上誰も 電磁波の影響について検証していない イージス・アショアを配備させてはなりません



- ① イージス艦のレーダーは強い電磁波を出すため、乗員はレーダーの稼働中、甲板に出ることが禁止されています。フェイズド・アレイ・レーダーは非常に短いパルス化した電磁波であり、エネルギーが強く、人体内に深く入り込む危険性が高いからです。

海上自衛隊のイージス護衛艦がレーダーを使用する場合、総務省から、出港して距岸50マイル（約80・5km）以遠で使用する、と制限を受けています。

イージス・アショアは同様の強力なレーダー波を出し、ミサイル発射時には強力な火炎と有毒な噴煙とガスを地上広範囲に発生させます。

- ② 地上型イージスはハワイとルーマニアに加え、2018年にはポーランドに設置されますが、すべてアメリカ軍（NATO軍）の管理です。いずれも広大な土地に設置されています。アメリカ軍以外では日本が初めて導入するシステムです。

秋田県の新屋演習場も、山口県のむつみ演習場も面積の狭い「小規模演習場」と言われ、集落が近くにあります。

阿武町の福賀小学校は3キロ以内にあり、危険な立地環境です。

- ③ むつみ演習場（東台）の隣の西台は、放牧地です。山口型放牧が奨励されており、天然記念物の「無角和牛」の里は危険にさらされます。

防衛省が電磁波被害について、「安全」と説明するようなことがあれば、住民は人体実験の矢面に置かれ、畜産業は破壊されます。

山鳩が飛び、ウサギが跳び、キジがつがいで戯れ、放牧された牛が悠然とそれらを眺めている台地…海と山に囲まれた美しいこの地域に、イージス・アショアはなじみません。

危険な人体実験場にさらされる地域に、定住する人が増えるでしょうか。

若者たちが、夢と希望をもって、安心して暮らせる「地域振興」になるでしょうか。

子や孫が、都会暮らしに疲れた時、安心して帰って暮らせる故郷でありたいのです。

みんなで、イージス・アショア配備計画の撤回を求めていきましょう！



「イージス・アショア」配備計画の撤回を求める住民の会
連絡先 090-1338-1841（森上雅昭）
Email : hagi-morikami@coda.ocn.ne.jp

